

2015年度 台湾 JIP 報告書

国立屏東大学 応用日本語学科

姫路獨協大学 外国語学部 日本語専攻 和田 奈弓
日本語専攻 王 思慧
外国語専攻 藤井 恭行

研修先	国立屏東大学 応用日本語学科 90004 台湾屏東民生東路 51 号
研修期間	2016年2月22日(月)～3月18日(金) 滞在期間：2016年2月21日(日)～3月19日(土) ※土日は休日
研修内容	オリエンテーション：50分×2コマ 台湾の日本語教育：50分 授業見学／TA(校内)：50分×49コマ 授業見学(校外)：6コマ 教壇実習：50分×6コマ 日本語教室：50分×2コマ フィードバック：50分×2コマ <hr/> 合計：68コマ ※授業見学／TA(校内)では、主に1年生の日本語(二)、日本語会話(A)(B)、日本語聴力練習、日本語発音を見学した。

1. 研修先

国立屏東大学は、屏東県にあり、高雄国際空港からは車で40分程度だった。最寄りの駅屏東駅からはバスで10分程度である。学生寮から教員のオフィスや応用日本語学科までは5分である。大学の近くには飲食店やスーパーがあり、非常に便利である。

2. 講義内容(台湾の日本語教育、日本語教室)

研修初日に行われた『台湾の日本語教育』では、台湾の日本語教育の実態について学んだ。台湾の日本語学習者数は5位で3.9%であるが、実際にはもっと多い。台湾は日本語教育が初めて行われた場所である。日本語教育上の問題点は、教材不足と初級で辞めてしまう人が多いという点である。台湾の日本語のレベルは非常に高く、日本語能力検定を受ける学習者も多くいる。台湾の大学では、4年間で「日常言語能力」から「認知学習言語能力」へ。外国語として目指す者は「認知学習言語能力」である。海外の日

本語教育で必要なのは、どれだけ教室を現実のコミュニケーションの場に近づけられるかである。学習者にとって、この研修は大事なアウトプットの間である。

第3週、第4週目の月曜日に、台湾の学生と日本人で『日本語教室』という授業を行った。2つの教室に分かれて他学科の学生と日本語学科の学生を対象に授業を行った。

1回目は、日本旅行に使えるサバイバル日本語というテーマで授業をした。他学科の学生は日本語が分からないが日本に興味がある学生が参加していた。観光地を紹介したり、日本のマナーについて説明したりした。2回目は、日本の多様な文化に関する日本語というテーマで授業をした。日本の関西と関東を比較した動画を見たり、お祭りを紹介したりした。実際に日本語教室をしてみて、苦労したこともあったが、非常に有意義な時間になった。他学科の学生と交流できる機会にもなって良かった。

3. 校外授業見学

屏東女子中学では、初級の授業を見学した。

学習者は日本語を学習し始めて半年で、会話の練習相手をした。

(名前、血液型、星座、好きな食べ物、趣味など)

生徒たちが、積極的に日本語で話しかけてくれた。



毎週水曜日に行われている“水曜の会”を見学した。

日本人の先生と年配の方々と日本語の文章を読んでいる。

資料を自分たちで選んで、毎週違うものを読んでいる。

日本語のレベルが非常に高く、私たちの話を聞いて

たくさんの質問を日本語ですてくれた。



千葉幼稚園は、日本語と英語を主に教えている幼稚園である。午前中は英語の授業を受け、午後は日本語の授業を受けている。園児たちは、日本語と英語の呼び名があり、授業によって呼び方が変わる。英語も日本語も非常にレベルが高く、中にはN2を取る人もいる。

4. 校内授業見学

まず、主に授業見学をした4つの授業について説明する。

- ・ 日語 (二) (文型導入)
- ・ 日語会話 (二) (文型練習)
- ・ 日語聴力練習 (二) (聴解練習)
- ・ 日語発音 (二) (読解・発音練習)

日語 (二)、日語聴力練習 (二)、日語発音 (二) は、生徒 58 名一斉に授業を受ける。

日語会話（二）はAとBの2つのグループに分けて授業をする。学生が学習した文型を忘れないように、1週間同じ課をするのではなく週を分けて授業をしている。

見学した他学年の授業は以下のとおりである。

- ・進階日語会話（二）2年生
- ・日語交渉與談判実務（二）3年生

進階日語会話（二）は、学生たちが状況に合わせて自作文を作っていた。

日語交渉與談判実務（二）はディベートの大会に出るための練習をしていた。テーマは“台北の都市機能を移すべきか、移さないべきか”で、賛成派と反対派に分かれてメリット・デメリットを考えていた。

5. 檀上実習

檀上実習は全部で3回担当させてもらった。

「日語（二）」で導入、「日語会話（二）」で文型練習を2クラス、実習した。

1つの授業を3人で分担を決めて授業を行った。



・第1回実習内容

科目名：日語（二）

対象：応用日本語学科 58名

指導教官：佐藤敏洋先生

実習日：2016年3月4日 5・6限

担当箇所：『大家的日本語』第25課「～たら」「～ても」

使用教材：『大家的日本語』

良かった点

- ・授業の準備がしっかりできた
- ・落ち着いて授業をすることができた
- ・学生の反応を見て、臨機応変に対応することができた
- ・学生の発話回数が多く、文型が身についた

改善すべき点

- ・板書をする時に学生に背中を向けて書くのではなく、学生の方を見ながら板書したほうがいい
- ・単語のアクセントにゆれがあったので、意識したほうがいい
- ・時間が少し余ってしまったので、多めに準備しておいたほうがいい
- ・学生に積極的に話しかけて、質問をしたほうがいい
- ・学生に分かりやすいように質問の仕方を工夫したほうがいい

感想



学生の人数が多くて少し不安だったが、全体的に落ち着いてスムーズに授業をすることができた。学生の発話が多く、文型が定着しやすくなるように工夫することができた。時間配分がうまくいかず、時間が余ってしまって何をしたらいいのか戸惑ってしまった。もう少し多めに準備をしておいたらよかった。

・第2・3回実習内容

科目名：日語会話（二）（A）（B）

対象：応用日本語学科 58名（2グループに分ける）

指導教官：劉秋燕先生

実習日：2016年3月7日 3・4、5・6限

担当箇所：『大家的日本語』第25課「～たら」「～ても」

使用教材：『大家的日本語』

良かった点

- ・PPTを使ってスムーズに授業をすることができた

- ・クラス全体に目を向けることができた
- ・学生の反応を見て、臨機応変に対応することができた
- ・楽しく文型練習ができた
- ・1回目でうまくいかなかったところを2回目で改善することができた

改善すべき点

- ・長文をコーラスするとき、分けて読ませたほうがいい
- ・座って授業をするより、立って授業をするほうがいい

感想



PPTを使って授業をすることにより、テンポよく授業をすることができた。1回目に上手くいかなかったところを2回目の授業で改善することができた。学生の自作文の添削をするときにうまく説明できなくて、もっと勉強する必要があると感じた。

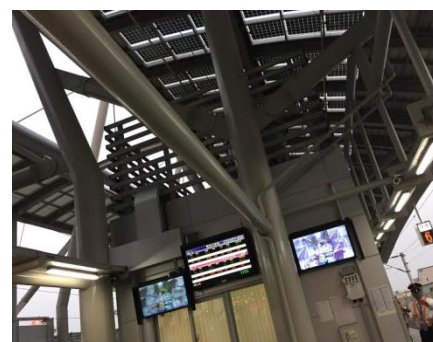
6. 放課後



授業以外の時でも、学生と交流する機会が多い。学生たちから積極的に誘ってくれる。

学生たち主催で、実習生の歓迎会・送別会を行ってくれた。歓迎会では、6つのグループにそれぞれ実習生が入りゲームをした。学生たちとすぐに仲良くなることができた。送別会では、6つのグループに分かれて料理をつくった。それぞれのグループが違う料理を作って、皆で食べた。送別会の最後には学生たちからメッセージカードと日本語学科のTシャツをもらった。

7. 生活



大学の目の前に飲食店がたくさんあるので食事には困らなかった。24時間営業のコンビニもある。1食50元前後でとても安い。学食は営業時間が19時までなので注意したほうがいい。

気候は、昼と夜の落差が大きい。思っていたより気温が低かったので、長袖の服を何枚か持って行っておくとよい。蚊が多く、虫よけスプレーとかゆみ止めは持って行ったほうがいい。

学生寮は4人1部屋である。下に勉強机、上にはベッドがある。各階に冷水器・給湯器、洗濯機、脱水機がある。部屋にはお風呂はなく、シャワーだけである。シャワーも土足で入るため、スリッパを持って行くことをお勧めする。学生寮と大学にはWi-Fiがある。寮のWi-Fiは電波が不安定なのでパソコンを持って行ったほうがいい。寮の地下には、共同の冷蔵庫・パソコン・ジムなどがある。

大学から屏東駅までバスで10分程度、高雄には電車で30分。学生たちが高雄に何度か連れてってくれた。屏東駅から台南までは電車で1時間30分程度である。運賃も安いので、交通費を気にしなくてもいい。

4週間で食費は2万円程度、雑費（お土産代は除く）は1万円程度。大学の近くは、クレジットカードが使える店がほとんどないので注意。国際キャッシュカードを持っていれば、大学のATMでお金をおろすことができる。

8. 研修を終えての感想

(和田奈弓)

実際に海外の日本語教育を見て、思っていたよりも授業の進むスピードがはやくて驚いた。はじめは学生たちがついていけているのか心配だったが、授業についていくために学生たちは日本語を一生懸命勉強していた。指導教官のご好意で学生たちの宿題の添削をさせていただいた。宿題を添削することによって学生たちがどこでつまづくのか知ることができ、とてもいい体験になりました。

実際に授業をしてみて、学生たちが作った文章をうまく添削できなくて苦勞することもあった。私自身日本について知らないことも多くて、もっと勉強しなければいけないと感じた。このような経験をさせていただいた先生方、サポートして下さった屏東大学の先生方、ありがとうございます。この4週間は私にとってとても有意義な時間だった。

(藤井恭行)

私は台湾での1ヶ月で様々なことを学ぶことができた。

現地の学生の日本語の授業に対する意欲は高く、またレベルも想像以上に高くて、驚いた。初めて授業に参加させていただいた時は、まだ学生との距離がありなかなか思うようにサポートすることができなかった。しかし、毎日、授業やそれ以外でも関わる時間が多くなってくると学生たちとも距離が縮まり、授業中も日本語に関する質問をいろいろしてくれ、壇上実習もスムーズに行うことができたので授業をする上でも信頼関係が大切なことだと学ぶことができた。

日本で日本人相手にする模擬授業と実際に現地でする教壇実習は全く違い、苦勞することも多かったがそれ以上に得るものがあった。また、自分の日本語の知識もまだまだ足りていないことも改めて知り、より日本語の知識を深める必要性を感じた。

(王思慧)

教授法で学んだことを使って実際に授業をやってみると、模擬授業とは違うところがいっぱい出て来た。例えば、教案の通りにうまく進められなかったり、学生の質問に答えたりすることもあった。私も日本語を勉強しているところだが、他人に教えるのは大変難しいと感じた。発音がおかしかったり、うまく説明できなかったりするところもあったが、恥ずかしいとは思わずに、諦めずに間違えたところを直した。

皆さん、チャンスがあれば、ぜひ、実習に行ってみてください。絶対にいい経験になると思います。